

校名：滋賀大学教育学部附属幼稚園

所在地：〒520-0817 滋賀県大津市昭和町 10-3

電話番号：077-527-5257

記載日： 2016年 5月 16日

記載者：塩見 弘子

記載者役職：副園長

貴校の校風、おおまかな特色について：

幼稚園・小学校・中学校が同じ膳所キャンパス内に設置され、附属学校園として「今を生きる」を基本理念とし、豊かな感性を育み、主体的に生きる子どもの育成を目指している。

幼稚園の園庭は、広く樹木や草花など自然に恵まれ、四季を感じられる環境を生かした保育を展開している。また、しっかりと遊び込むことを大切に、活動の素材や用具なども年齢発達に応じて、精選している。

3歳児、4歳児、5歳児とそれぞれの発達に応じた保育を大事にしながらも、異年齢との交流の意味を捉え、そこでの育ちを教師間で確認しながら、特に遊びや生活の中での自然発生的なかかわりを大事にしている。

保護者については、子育てに熱心な方が多く、PTA研修会へも全員の出席があり、幼稚園教育への理解、協力が得られている。

貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① 特に追跡調査は行っていない。
- ② 連絡進学なので、ほぼ全員が附属小学校・中学校と進学します。その後のことは、把握できていない。

貴校勤務経験者の先生方が公立学校・教育委員会などへ戻られた後の活躍状況について：

- ① 特に追跡調査は行っていない。
- ② 教諭については、以前は全員県との交流人事だったので、県教委が把握している。
- ③ 教諭については、ほとんどが滋賀県内市町の公立小学校で勤務している。
副園長については退職後、個人で保育園（こども園）を設立し運営、滋賀大学非常勤講師として勤務後退職、また他大学で勤務等である。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

先導的というだけでなく、長年の積み重ねにより成果が見られることが多く、その意味でも下記のような内容実践を紹介したい。

【地域との交流】

① 5歳児同士の交流（地域の幼稚園と）

5歳児が地域の幼稚園の同学年の幼児との交流の機会を持っている。以前から続いている取り組みで、毎年、教師間でねらい具体的な内容を考え、指導計画と実施後の評価反省を積み重ねている。同年齢の交流は、お互いに刺激となり、普段自園で過ごしているだけでは得られない機会となっている。

② 地域の人材を生かす

栽培や調理など、地域の大人（得意技を持つ）の方に来園していただき、教えてもらったり、ふれあったりする機会を持っている。教師ではない人から教えてもらう機会を持つことで、人への関心も広がり、知識を得るだけでなく、親しみや感謝の気持ちが深まる。本園では長年続いており、その方とのつながりも長くあり、幼稚園以外の場や卒園後も出会うと声を掛け合う関係が築けている。



【附属学校（他校種）間での交流】

① 小学校と

特に5歳児が1年生との交流の機会を持つことは、小学校入学に向けての不安解消、期待感に繋がる。一日入学や給食交流だけでなく、教科による子ども同士の交流授業もその年々で行っている。



② 中学校と

中学3年生の家庭科の保育の授業として、5月には幼稚園で交流して遊び、12月には中学校に招待して遊んでいる。中学生は、初めて触れ合う幼児をどのように理解するのか、そのことを12月に遊びの場を作って招待する時に生かしている。年に2回実施することで学びが深まる。

③ 特別支援学校・高等部と

高等部の生徒さんと一緒に春に芋苗を植え、秋には収穫をする。高等部の生徒さんは、幼児を迎え入れるための準備をしてくれる。幼児にとってもコミュニケーションをとるためには自分からも働きかけていかなければならない。お互いに相手を思いながらの体験となる。

【食育】

栽培活動に取り組み、収穫物を調理したり、家庭へつなげていくことで、食育活動を実施している。

① さつまいも栽培

幼稚園の畑で栽培をする。掘った芋は家庭に持ち帰り食べたり、園では焼き芋をする。3歳児は親子で体験し、4歳児は先生や友達と一緒に取り組む。



② 個人鉢で親子栽培をする。

夏野菜では、4歳児はプチトマト、5歳児はピーマンを育てている。毎日登降園時に親子でその成長を観察したり世話をすることで、収穫の喜びがある。嫌いだった野菜を食べられるようになるきっかけにもなっている。

③ 「もりもりファイル」(食育ファイル)

5歳児では、その他の野菜も園の畑で育てている。4歳児の時に種をまいて5歳児になって収穫する玉ねぎ、人参、ジャガイモでカレーを調理する。エンドウ豆やソラマメは家庭に持ち帰る。秋に種をまいて冬に収穫する大根やカブは、園でも調理し、また家庭にも持ち帰る。

園で収穫したものすべてを園で調理はできないので、家庭に持ち帰って食べてもらう機会も多くある。そこで、5歳児では「もりもりファイル」を作成し、収穫し持ち帰り調理をした様子を記入するファイルを作成している。そのことで、食育への親の意識も高まっている。



【PTA活動・交通安全】

本園は公共交通機関を利用して遠方からの通園が多い。そこで、交通安全やマナーの意識を高めるためにPTAが主体に2つの取り組みをしている。

① 交通安全立ち当番

最寄りの駅から幼稚園までの道の中を要する箇所に、通園時保護者の立ち当番を実施している。交通安全意識の高揚と共に、地域住民の方とのあいさつ運動の意味もあり、マナー向上も図っている。(全保護者年2回)

② モデル通園(5歳児)

5歳児全員が1週間交代で、5・6月と1・2月に「モデル通園」として、毎日バッチをつけて通園する。そのことで周りから「頑張ってるね」と声をかけられたり、「自分はモデルとして、ちゃんとする」という意識を持つことになる。前期の5・6月は年長になって張り切っている、また1・2月はもうする小学校になる自覚を持って頑張っている。

地域において、現在、貴校はどのような存在であると考えますか：

毎年11月に「公開研究会」を開催している。近年、幼稚園だけでなく、保育所、こども園からの参加が増えてきている。「子ども子育て新制度」施行に伴い、幼児教育の現場も保育の質が叫ばれてはいるものの、仕事内容は煩雑になってきており、研修の場が確保しづらくなってきている。本園のこの研究会の機会が研修の場の保障の意味でも大きな役割を果たしていると思われる。研究を伝えるだけでなく、保育者同士が保育について語り合い学び合える機会としての重要性を認識している。

また、県内の公立幼稚園では今まで2年保育が主流であったが、徐々に3年保育の実施が始まっている。幼稚園としての3年保育の取り組みが長く実績のある本園に対して、視察や講師依頼が多くなってきている。受け入れをし、指導計画・保育活動についてしっかりと伝え、その期待に答えていきたい。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

平成26年度以降の実績

<公開研究会>

県内外幼稚園・こども園教諭、保育所保育士、学生等 述べ人数 約280名
(今年度予定)

公開研究会11月18日

<視察研修受け入れ>

県内外公立幼稚園教諭・保育園保育士等 述べ人数 42名
(今年度予定)

市立幼稚園教諭 16名(8日間)等

<講師依頼>

県内公立幼稚園教員研修会等(3回) 述べ人数 約120名参加
(今年度予定)

県内公立幼稚園園内研修・こども園全体研修(3回)

毎年11月に「公開研究会」を開催し、県内の公立幼稚園・保育所・こども園を中心に全国から100名を超える参加者があり、本園の保育・研究からの提案、保育について語り合う場として、定着している。

また本園が今まで取り組んできた実績から、3年保育や発達にふさわしい環境、ドキュメンテーションについての研修依頼が多く寄せられている。保育実践を通しての実際の保育現場に役立つ、また保育者の質の向上につながる研修への期待に答えていきたい。